



● 馬驥水墨畫會全國本部設立10周年  
● 馬驥水墨畫展示館設立10周年

記念特別版

謹賀新年

今年は午年、十二支の七番目 方角は南、時刻は十二時を指します。国際的な不況からの再起の年

一九九九年よりの闘病となりハビリで  
皆様にご心配をお掛けしておりますが、お蔭様で  
年々快方に向かっております。

会員の皆様には、新しい年が楽しく健康でありま  
すよう。また、水墨画の「心」の表現を目指して、  
創作研修に励まれますよう、祈っております。

主宰  
馬騮

東洋美の心髓を汲み取り、基礎的な知識を積み重ね、その上に新時代の藝術性を高め水墨画を創作することを目指しました。

# 藝術大賞 員展發展の歴史

ベルを目指すべき  
助を迎えていると  
え、各自の発想や  
きを最大限に生か  
た創造性溢れる独  
的な作品を創作す  
第一回の「日中水墨画交流展」

1999年11月16日

初日 11月 日中両国から  
年と馬驍  
などが重な  
当たり、  
第7回  
て挙行され、  
芸術団の雜技  
時半より授賞  
た。今回は特別

16日の開幕式は  
こ来賓の列席を得  
中国民族音楽舞踊  
公演の後、午後四  
別に副賞として馬  
式が行われまし

第一回・馬騒芸術大賞展

（会場は第1回から第3回まで  
いずれも東京芸術劇場五階ギャラリーを利用しました。）

日本美術家協会の精選作品も併せて展示され、中国大使館文化部、日中友好協会全国本部、日中文化交流協会、日寶出版社、日本美術教育センターの後援をいたしました。

**最近の馬驥先生**

平成13年11月、療養のため上海へ。その際に足を延して訪れた蘇州でスケッチに励む馬驥先生。気に入った街角の風景をその場で絵に描き起こします。

傍らで見守る王荻地先生の表情から察するに、この作品なかなかの傑作であることは間違いないなさそうですね。

最近の馬驥先生

受けたかった中国上海美術館副館長の丁義元先生は「新しい感覺の日本の水墨画であり、年々質が高くなってきた」と講評くださいました。また、一

えるには、名称変更が効果的であると判断したのです。また、巷に似た名称の展覧会が見られるようになり、当画会を特定できる名称が必要とされていた事情もありました。

団体の方々のご好意に恵んで感謝の気持ちを忘れないでいたるところなどはございません。

あるには、名称変更が效果的であると判断したのです。また、巷に似た名称の展覧会が見られるようになり、当画会を特定できる名称が必要とされ、また、画会の活動をより理解頂き支援して下った国内外の政府機関や地方自治体、日中友好团体、芸術家や評論家の皆様、マスコミ、出版関係者をはじめ各

## 「馬驍藝術大賞展」への道程

## 会員展発展の歴史を振り返る

その後、「日中水墨画交流展」は、第四回、第五回、第六回と同じく毎年継続して開催されました。毎回を重ねる度に国内外の多くの著名画家、水墨画家、美術評論家、美術史家、作曲家、美術関係、出版社、放送、新聞関係の多くの人々との交流を持つことができ、展覧会を通じて異なった文化に触れ、芸術的視野を広げることができました。そして1999年、大きな転換期が訪れます。当初、第七回「日中水墨画交流展」として予定されていた会員展は、第一回「馬驥芸術大賞展」に名称変更されました。

会員たちが更に高いレベルを目指すべき時期を迎えていたと考え、各自の発想や閃きを最大限に生かした創造性溢れる独創的な作品を創作することを目標として設定したのです。そして馬驥先生は、芸術性を追求した高いレベルを目指す志をはっきりと会員に伝えるには、名称変更が効果的であると判断したのです。

また、巷に似た名称の展覧会が見られるようになり、当展会を特定できる名称が必要とされていた事情もありました。

日中双方の諸先生方にも御判断を仰いだ結果、「馬驥芸術大賞」と名称を変更することに決定しました。

2001年には、第三回「馬驍藝術大賞」が東京芸術劇場で開催され、通算すると九回目の会員展です。昨年は「馬驍水墨画展示館」と「馬驍水墨画会全国本部設立」10周年に当たり、記念として過去10年間の集大成となるようにと会員の作品を中心に展示し、作品の質の高さを再確認できる企画として189点の力作が展示されました。作品をご覧になられた専門家の方々からも、「作品の内容が深くなり、藝術の領域に達した作品が多くあった。」と高い評価をいただきました。

過去の作品も出品の対象としたことで、会員はこれまで自分の作品を比較検討する機会を与えられ、このことが大いに勉強になったようです。自分の成長に自信を持ち、勉強の励みになった方、足りない部分を見つけ、発展方向を決める良い機会になつた方など好意的な意見が数多く寄せられました。出品作品は、参考になる秀作揃いで、創作意欲を大いに刺激されたことを感謝致します。

第一回の「日中水墨画交流展」から2001年の「馬驍藝術大賞展」まで、会員の皆様には毎年に亘って日中友好と国際文化交流を目的とした日中水墨画交流展に多大な貢献をなされたことを感謝致します。

また、画会の活動を理解頂き支援して下った国内外の政府機関や地方自治体、日中友好团体、芸術家や評論家の皆様、マスコミ・出版関係者をはじめ各団体の方々のご好意に対して感謝の気持ちを忘れないでいたいものです。画会としても多大なるご支援に對して、これほど名譽なことはありません。

「馬驥芸術大賞展」を振り返り  
(会場は第1回から第3回  
いずれも東京芸術劇場五階  
ラリーを利用しました。)

第一回・馬驥芸術大賞展  
1999年11月16日～

馬驥水墨画会の20周年と  
先生の芸術活動20周年とが  
る大変に意義深い年に当た  
また日中水墨画交流(第7  
を「馬驥芸術大賞展」と改  
て行う変革の年でもありました。  
会員の平素の研鑽によ  
性溢れた芸術性豊かな軸装  
を集めて開催されました。  
実行委員長には味岡義  
(渋谷区松涛美術館主任学芸  
術家連盟理事長)、加山英利  
(日本画家)、審査員には味岡  
委員長をはじめ、馬・王両先  
北岡文雄氏(版画家・前日  
美術史家)、審査員には味岡  
家・オーストリア中国美術  
会会長)の6氏が当たられ  
た。

会場にはオーストリア中

最近の馬驥先生

平成13年11月、療養のため上海へ。その際に足を延して訪れた蘇州でスケッチに励む馬驥先生。気に入った街角の風景をその場で絵に描き起こします。

傍らで見守る王萩地先生の表情から察するに、この作品、なかなか傑作であることは間違いないなさそうですね。

までの  
ギヤ  
重な  
り、  
回)  
まし  
他、  
状とど  
ました。

21日  
馬驥  
一  
人氏  
員・  
实行  
先生  
る個  
作品  
した。

術家協会の精選作品も併せて展示され、中国大使館文化部、日中友好協会全国本部、日中文化交流協会、日貿出版社、日本美術教育センターの後援をいただ

きました。

初日の11月16日の開幕式は、日中両国からご来賓の列席を得て挙行され、中国民族音楽舞踊芸術団の雑技公演の後、午後四時半より授賞式が行われました。

た。今回は特別に副賞として馬驥先生の作品が贈呈され、馬驥先生の水墨画、掛軸などの肉筆作品の他、リトグラフや版画などが賞状とともに出品者に手渡されました。

最終日の11月21日は正午より、実行委員長の味岡義人氏による「日本の水墨画の現在と未來について」スライドによって主要な受賞作品を順に見ながら、丁寧な解説がされました。

なお、味岡委員長からは、作品について次のような総評が述べられました。

べられました。「上位入賞作品は  
いずれも甲乙付け難い出来栄え  
でした。非常にしっかりした技  
術を、既に身につけられている  
ことに驚きました。」



味岡  
義人 様  
室伏  
哲郎 様  
王 荻地 先生様  
馬 驚先生様  
岸 ユキ様  
重吉 聰様  
木下 忠司様  
加山英利子 様

と東強氏  
（中国油彩  
画家）が当  
たられまし  
た。  
初日の12  
月11日、大  
会議室で開  
幕式が挙行  
され、来賓  
ご列席のう  
え、授賞式  
で各賞が授  
与。終了後  
に特別ゲス  
トとして国

【こ来賓】張愛平（中国大使館文化参事官）ほか関係各界の方々がご出席下さいました。

【馬騮芸術大賞受賞（50音順）】

大倉恭子「北国の藤II」  
笛／鍊島純子「イグアス・悪魔の喉  
笛」／柏木美保子「Happy Life」  
f e／木村洋子「サウドウゾ  
イグアス」／徳納美津「秋聲」  
／新田邦子「双滝共鳴」野島浅  
三「太鼓橋から宮を望む」／山  
崎重之「靄然」／山崎發江「連

人間活動の中の「美」を、知覚でとらえて芸術として表現する。日本人は一般に情緒的な傾向があり、永い歴史と伝統の中に、独特的中国文化を吸収し開花させ、水墨画の発祥源として日本文化にも伝承されまた」と話されました。第一部は、王萩地先生の「初心者のための花鳥画描法」について、丁寧な講義が行われて会員が熱心に聴講しました。

最終日の午後一時より特別講演会が開催されました。第一部は、室伏哲郎先生が「私の芸術論」と題して熱のこもった二

引き続いて祝宴の会場を芸術劇場向い側の東方会館に移し、来賓を多數迎えて中華料理を囲みました。豪華な部屋での交流の時間を存分に楽しんで解散しました。

際的なハープ奏者ヨセフ・モルナール氏の演奏会が開かれ、リクエスト曲を含めて、和洋の名曲が会場に溢れ、喝采を博しました。

10月4日には来賓ご列席のもと開幕式が挙行されました。挨拶に立った馬騒水墨画界主宰の馬騒先生が、ご自身の生き方から芸術性の追求の心情を、情熱を込めて語られました。

授賞式では、実行委員長の王荻地先生より成果報告がされました。その中で、今回新たに新創意賞、技法研究賞及び新星習作賞の3賞を創設して、水墨画制作の独創性・新鮮性を顕彰するとの説明がありました。

午後は、馬／王両先生による講演会が開催されました。出席

大賞展三年目で、最初の日中水墨画交流展から九年目となりました。画会会員がそれぞれ個性を生かし、自由な発想から芸術の「心」を込めて描いたレベルの高い189点の力作が、多く

千晶様（月千賀味の水墨画集）  
長）、吉田宏様（吉田宏事務所）、  
吉田実様（元朝日新聞北京支局  
アジア総局長）

【馬騒芸術大賞受賞（50音順）】

浅沼保「流転」／石井悦夫「白  
い雲」／大瀧巨峰「望郷」／小  
川澄子「寺の老松」／川照子  
三四郎の猫」／菊島幸子「夜曲」  
／木村峯子「妖（鏡花幻想）」／  
斎藤歌子「ねむの花」／杉山祥  
鳳「ひと休み（その2）」／高野  
喜與子「葦の水辺」／田口婦美  
子「情熱の瞬間」／永田みえ子  
「竹林」／野島和子「庭の隅」／  
松井重泰「凍滝」／山口泰子  
「楽しみ」／山崎美代子「カナダ  
の旅・ナイアガラ」

【こ】来賓（50音順） 安蒜一良様  
（日本美術教育センター）、伊藤  
滋様（日本美術教育センター事  
務部長）、黄伝偉様（中国画家）、  
金成博明様（可成屋社長）、高橋  
幸重様（日貿出版社会長）、藤沢  
静代様（東武よみうり新聞社）、  
松沢了史様（NHK放送局）、水  
原渥様（日貿出版社社長）、山本

より「大賞展が大変な好評を受けて終了できたのは、作品の搬入、展示、授賞式や講演会の会場準備、片付け、作品の搬出ま

者全員に別付録として「講評集」が配布され、幾つかの作品について例を挙げながら講評を行いました。さらに「水墨画の藝術について」の教材が配布され、齊白石、横山大観、池田満寿夫、植村鷹千代の藝術思想に学ぶことを中心に熱心に講話し、水墨画を学ぶ会員に多くの示唆を与えました。

速報

**JAPAN2001 英国ロンドンにて  
馬鹿水墨画展開催される**

2001年12月17日から22日までの6日間、イギリス・ロンドン市ブルームズブリーのウォーボンギャラリーで「日本の心」「馬驍水墨画展」が開催されました。

英国では2001年5月から2002年3月にかけて、日本紹介事業「JAPAN 2001」が行われており、イギリス各地で日本の文化芸術が披露されています。今回の展覧会はその公式イベントの一環として正式に認可を受けたものです。「JAPAN 2001」名譽総裁には日本の浩宮皇太子と英国のチャールズ皇太子が就任しています。

馬驍先生の滌墨山水画の代表作が展示され、東洋芸術の神秘と多数の参観者から賞賛され、現地のメディアでも高く評価されました。

力と親睦を深め、  
ることができました。  
会常任理事の  
立案で皆様のご協  
力いたしました。  
離れたところです。  
付2点（海神／離  
館と剣淵町役場  
新支部長紹介  
(平成13年10月21日付)  
■東京第3支部長  
▷根岸協子  
■東京第4支部長  
▷高寺慶市  
よろしくお願ひいたします。

支部展の開催（平成13年分）	
第3回茨城支部展	3月28日～4月1日
牛久三越ギャラリー	国分寺Lホール8F
第7回多摩支部展	5月10日～13日
第9回静岡支部展	5月30日～6月6日
静岡しづぎんギヤラリー四季	6月21日～24日
第7回埼玉支部展	草加市アコスギャラリー
第4回東京第3支部展	6月29日～7月1日
東京芸術劇場展示室2	東京芸術劇場展示室2

## 馬驥先生「特別集中講座」開かれる

豊島区立南大塚社会教育会館を会場に計5回

馬驥先生による特別集中講座は演題「水墨画と芸術について」として、これまでにシリーズで5回開催されました。その内容を簡単にご紹介します。

### ■ 第1回～第3回／山水画

(第1～3回は、水墨画スケッチ法について「風景の画法と省略／強調のコツ」を解説する講演となりました。)



ヨーロッパ、日本の都市風景を題材にする時の心得は、必ず自分の好きな場所あるいは感動した場所を選ぶこと。必ずしも遠くへ行く必要はない、現在住んでいる地元など良く分かっている場所を選ぶとよい。その土地を代表するものや時代性のあるもの、芸術的なものを選び、思いが発散できる所である事が望ましい。

### ＊制作する上で心得

(1) スケッチする。近景、中景、遠景を把握し、ポイントのある様に。カメラで記録する。左右前後上下あらゆる角度より記録する。風景に感動したことなど記憶のみでは決して描けない。

風景を描く時、背景がたくさん見えて大変描きづらいと思うが、その風景の感動したところ、大切なだけ選択する。そこをポイントとして強調して描き、省略するものを考慮するのがコツである。省略してもいる

(2) 構想を練る。この時芸術性を考えての構想である事。(3) 表現方法を考る。どの技法を用い、どの様にするか、また用具も考える。技法や用具に対しての固定観念を捨て、あらゆることを試みるとよい。

風景を描く時、背景がたくさん見えて大変描きづらいと思うが、その風景の感動したところ、大切なだけ選択する。そこをポイントとして強調して描き、省略するものを考慮するのがコツである。省略してもいる

（4）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（5）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（6）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（7）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（8）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（9）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（10）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（11）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（12）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（13）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（14）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（15）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（16）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（17）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（18）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（19）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（20）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（21）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（22）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（23）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（24）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（25）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（26）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（27）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（28）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（29）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（30）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（31）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（32）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（33）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（34）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（35）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（36）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（37）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（38）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（39）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（40）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（41）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（42）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（43）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（44）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（45）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（46）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（47）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（48）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（49）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（50）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（51）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（52）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（53）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（54）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（55）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（56）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（57）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（58）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（59）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（60）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（61）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（62）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（63）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（64）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（65）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（66）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（67）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（68）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（69）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（70）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（71）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（72）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（73）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（74）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（75）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（76）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（77）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（78）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（79）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（80）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（81）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（82）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（83）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（84）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（85）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（86）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（87）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（88）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（89）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（90）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（91）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（92）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（93）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（94）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（95）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（96）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（97）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（98）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（99）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（100）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（101）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（102）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（103）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（104）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（105）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（106）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（107）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（108）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（109）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（110）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（111）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（112）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（113）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（114）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（115）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（116）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（117）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（118）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（119）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（120）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（121）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（122）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（123）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（124）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（125）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（126）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（127）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（128）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（129）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（130）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（131）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（132）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（133）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（134）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（135）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（136）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（137）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（138）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（139）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（140）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（141）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（142）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（143）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（144）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（145）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（146）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（147）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（148）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（149）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（150）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（151）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（152）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（153）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（154）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（155）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（156）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（157）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（158）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（159）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（160）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（161）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（162）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（163）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（164）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（165）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（166）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（167）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（168）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（169）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（170）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（171）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（172）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（173）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（174）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（175）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（176）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（177）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（178）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（179）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（180）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（181）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（182）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（183）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（184）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（185）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（186）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（187）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（188）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（189）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（190）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（191）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（192）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（193）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（194）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（195）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（196）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（197）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（198）人物を題材にスケッチから水墨画へ

（199）人物を題材にスケッチから水墨画へ

